

# 清瀬市市民憲章

(昭和55年10月5日制定)

縄文<sup>じょうもん</sup>のむかし、太古の人びとは、柳瀬川のほとりに、点々と小さな集落をつくり住みついた。広い土地、清い流れ、豊かな緑、そして澄みきった大気があったからだ。

いま、宇宙時代の朝、窓をあけて吸いこむ清らかな大気、陽<sup>ひ</sup>に映える緑、快い小鳥のさえずり。今日の営みの音が、風によって流れはじめる。まちのうちそとで働く人びとが行きかい、登校の子らが明るく歩み、笑顔でかわす街かどの挨拶<sup>あいさつ</sup>。

年老いた人を敬いいたわり、幼な子や病む人、体の不自由な人びとに思いやりの心をよせる。だれもが、きまりを守りゆずりあい、子や孫のために、より良い環境と風習<sup>のこ</sup>を遺す努力を続ける手づくりのまちに、括気が溢れる。

陽<sup>ひ</sup>が緑のかげに沈み、やがて、安らぎの夜がおとずれ、一日の営みに快く疲れた心と体をいやし、静かな眠りにつく。

夢に描くのは、一つの輪。隣人と肩を組み、世界の友と心をかよわせる――。  
ふるさと清瀬を、このようなまちにするため、わたくしたちは未来への道標<sup>みちしるべ</sup>を、いまここに建てる。

## 美しい緑のまちを

山茶花<sup>さざんか</sup>が香り、櫻<sup>けやき</sup>のそびえるまち清瀬よ。緑豊かな、明るいまちであるように。  
わたくしたちは、恵まれた自然を守り、草や木を育て、清潔な環境を保つために、心をくばる。

## 明るく手をつなぐまちを

一人ひとりの営みに誇りをもつ、手づくりのまち清瀬よ。だれもが満ちたりた気持で暮らせるまちであるように。

わたくしたちは、心をひらいて語りあい、互いの立場をみとめ、力をあわせ、小さな努力の積みかさねを大切にする。

## 暖かい心のまちを

生きるよろこびと、明日への希望<sup>あふ</sup>が溢れるまち清瀬よ。思いやりといたわりの心に満ち、だれもが安心して住めるまちであるように。

わたくしたちは、あらゆる災害を防ぎ、健康な心と体を保ち、健全な社会<sup>つ</sup>を創るために、安らぎと向上の場を築く。

## 時代とともに歩むまちを

未来への確かな足音の響くまち清瀬よ。素朴な遺産を大切にしながら、つぎの時代へ歩みを進めるまちであるように。

わたくしたちは、土の香のただよう文化を受け継ぎ伝え、若い世代<sup>はぐ</sup>を育み、新しい時代の文化<sup>つ</sup>を創る営みを続ける。

## 世界にひらくまちを

武蔵野の緑のなかで、平和を愛する人の住むまち清瀬よ。日本の友、世界の友と心のかよいあう、ひらかれたまちであるように。

わたくしたちは、命あるものを大切に思い、緑の大地に生きるよろこびを、すべての人びととわかちあう。

# 清瀬市の市章、木、花、鳥など

## 市章（昭和36年8月1日制定）

キヨセの「キ」を丸く図案化したもので円は団結と平和を、中央の縦線は発展と飛躍を表わしています。  
昭和36年に、広く全国に公募して決定しました。



## 市名の由来

諸説ありますが、その一説に、旧上清戸村・中清戸村・下清戸村に見られる清戸の「清」と柳瀬川の「瀬」を合わせたものだとされています。

## 市の木・花・鳥（昭和48年3月18日制定）



### 市の木 ケヤキ

本州・四国・九州に広く分布している落葉高木。成長が早く、高さ50m、幹の太さ直径4m以上にもなり、深根性のため強い耐風力をもっています。

木の姿が美しく、清瀬の土壤に適している。公園、街路樹、屋敷林、並木等にも適しています。

### 市の花 サザンカ

10月から12月に5弁化を開く常緑小高木。  
清瀬市内では、庭木等として市民に親しまれており、増殖が可能で苗が豊富なため、市民の需要に容易に応えられています。



### 市の鳥 オナガ

主に関東地方に小群をなしており、尾羽が長いのが特徴。  
頭は黒く、体は青みがかったグレーなお洒落な鳥。  
「ギョイエー！ ギュイツ！」と鳴きながら雑木林から雑木林へ飛び交っています。

その姿が自然に調和して美しく、清瀬でも多くの市民に親しまれています。

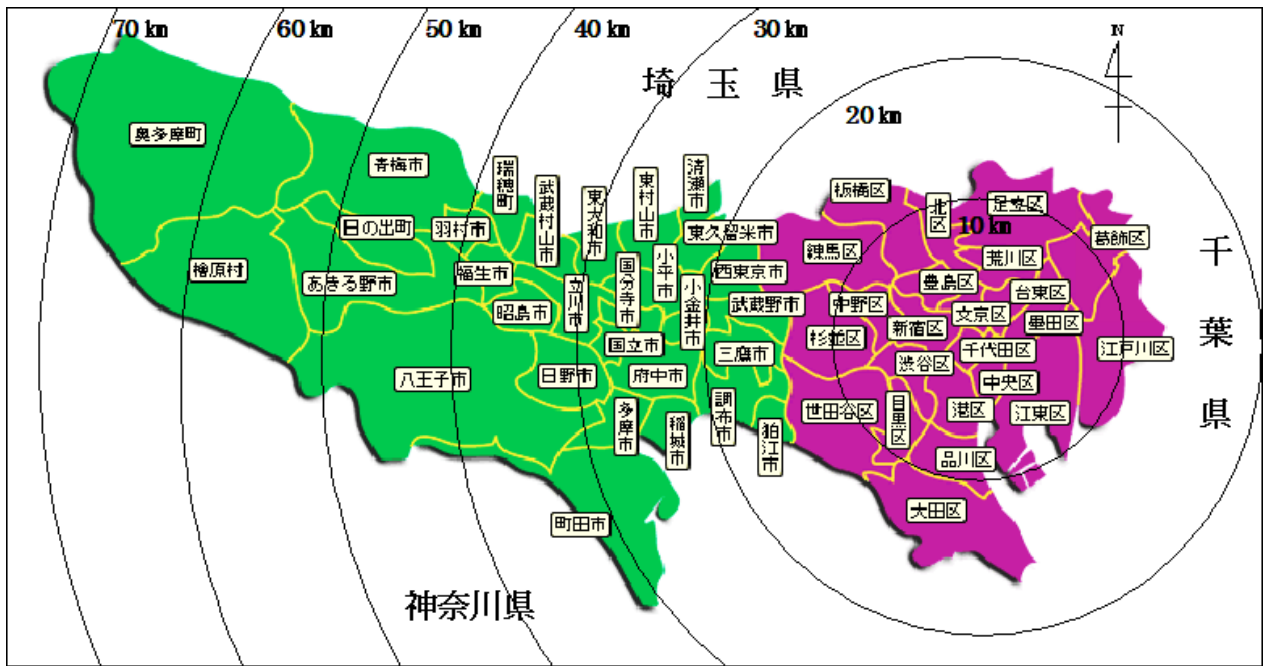
## 市制施行50周年記念ロゴマーク

令和2年10月1日の市制施行50周年を記念し、公募により決定したもので、清瀬市の「木」ケヤキ、「花」サザンカ、「鳥」オナガをひらがなの「きよせ」にマッチングさせ、市に対する親近感が湧くデザインとなっています。

今後は様々な記念事業や、市内外に清瀬市の魅力を発信していく際に活用していきます。



# 清瀬市の位置図



# 清瀬市全図

